【青森県立青森高等学校　進路通信】

白聖 はくあ　第16号　令和8年10月27日発行

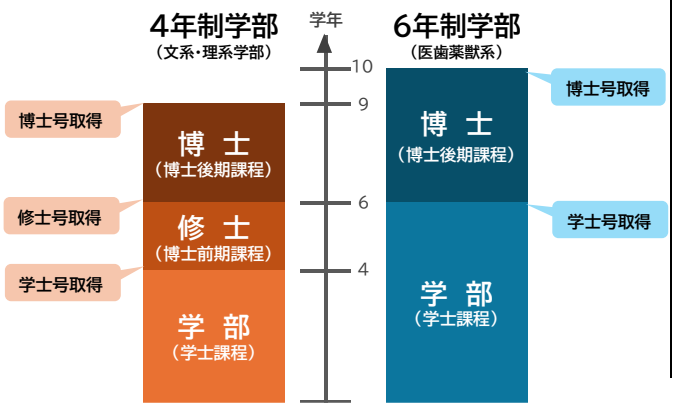


《大学について学ぼう④　大学院》

大学卒業後の進路には「就職」という選択肢がありますが、一方で大学院に「進学」する人も一定数います。大学院という場所で何をするのか、漠然と「研究をするところ」というイメージはあっても詳しくわからない人も多いのではないでしょうか。今号では、大学院の定義や、進学で得られるメリットとデメリット、文系と理系の大学院進学の違いなどについて解説します。高校生には少し気が早い話題かもしれませんが、選択する学問分野によっては大学院進学が当たり前になっている学部・学科もあります。進路選択では、大学名だけでなく、入学後にどんな進路が多いかを知ることや、将来像を具体的に持てるほど納得度が高まりやすい傾向にあります。大学院への進学も視野に入れて将来のキャリアを長期的に考えることは大切なことです。

「大学院」とは、大学の各学部の上に置かれる教育機関を指します。そこでは大学で学び研究した課題について、さらに深く専門的に研究を行います。進学するタイミングは大学卒業後が一般的ですが、社会人になってから進学することも可能です。

一般的な4年制学部を卒業すると「学士」の学位を取得することができます。その後、学びを深めたい場合には大学院へ進学し、2年間の修士課程（博士前期課程）を修了すると「修士」、さらに3年間の博士課程（博士後期課程）を修了すると「博士」の学位を取得することができます。6年生学部を卒業すると「学士」、さらに4年間（標準修業年限）の博士課程（博士後期課程）を修了すると「博士」の学位を取得できます。



大学院に進学するとさまざまなメリットが得られますが、一方でデメリットもあります。進学を考慮する際は以下を参考に検討してください。

【大学院に進学するメリット】

○自分のやりたい研究を充実した専門施設で集中して行うことができる
○就職先の選択肢が広がる（特に理系分野は積極的に大学院卒を求める企業も多い）
○就職後の給与（初任給）が大卒より高くなる
○大卒まででは得られない新たな人脈が広がる

【大学院に進学するデメリット】

○社会に出るタイミングが同学年の友人たちより遅れる
○研究で非常に忙しく、他のことをする余裕がなくなる
○学生期間が延長となるため金銭的に負担がかかる
○必ずしも社会に出てから役立つスキルが身につくわけではない（研究系大学院の場合）

メリットとデメリットは表裏一体のため、自分にとってどの面を優先すべきか、どの面は許容できるかなど検討したうえで大学院への進学を決めるとよいでしょう。

【文系と理系で大きく異なる大学院進学率】

大学院進学率は、学部系統によって大きく異なっており、全体的に理系は文系より高くなっています。

理系は、研究開発や技術職、専門職などで修士卒が採用上の標準になりやすく、学部の学びと大学院での専門性が就職に直結しやすいと言えます。工学部などでは大学院修士課程への進学を前提とした6年一貫の教育プログラムが用意されているケースも珍しくありません。

一方、文系ではどの学部系統でも大学院進学者は少数派となるようです。文系は、企業側が新卒一括採用を中心に学部卒を採用し、入社後の研修で育てる形を取りやすい傾向があります。そのため学生には、2年間の学費と時間をかける価値を判断しづらくなります。ただし、これは文系大学院に価値がないという意味ではありません。研究職や大学教員を目指す場合だけでなく、政策、教育、心理、国際関係、データ分析、専門職大学院など、修士での学びが強みになりやすい進路もあります。

では、大学院への進学率が高いのはどの大学でしょうか。朝日新聞出版「大学ランキング 2026」に掲載している「大学院進学率ランキング」（2024 年）から、一部を紹介します。まずは理系の中で特に大学院進学率の高い工、理工学部の大学院進学率ランキングを見ていきましょう。

◆大学院進学率ランキング（工、理工学部）

順位		大学名	学部	%
1	国	東北大学	工学部	90.1
2	国	名古屋大学	工学部	88.2
3	国	大阪大学	工学部	87.4
4	国	京都大学	工学部	86.9
5	国	九州大学	工学部	85.3
6	国	長岡技術科学大学	工学部	84.4
7	国	北海道大学	工学部	83.7
8	国	宇都宮大学	工学部	83.6
9	国	東京農工大学	工学部	82.4
10	国	豊橋技術科学大学	工学部	82.0

トップは東北大工学部で、大学院進学率が 90%を超えています。2 位以下は、名古屋大工学部、大阪大工学部、京都大工学部、九州大工学部の順で、旧帝国大学の工学部が上位を占めています。大学院進学は費用も時間もかかりますが、優秀な理系学生が大学院でしっかりと学んでおけば就職の選択肢も大きく広がるので、大学院進学の苦労に見合うという判断になりやすいのではないでしょうか。6 位の長岡技術科学大工学部は、高等専門学校などを卒業した編入学生が中心という特徴があります。1 年次の募集人員 80 人に対し、3 年次編入学の募集人員は 340 人と、4 倍以上も多くなっています。そのため一般的な受験生からは馴染みが薄いのですが、高度な技術を身につけられる大学の 1 つです。同じ「技術科学大」である 10 位の豊橋技術科学大も同様の特徴があります。7 位からは北海道大工学部、宇都宮大工学部、東京農工大工学部の順でした。

ちなみに東京大工学部は 76.4%で 20 位と、他の難関大と比べてやや低い順位になっています。これは都心にキャンパスがあり、研究と就職活動の両立がしやすいことや、専門性を高めることよりも学力の高さを生かして学部卒で商社やコンサルティングファームなどへ就職するケースや起業するケースがあることなど、さまざまな要因があると考えられています。

次に文系の中で特に大学院進学率の低い経済、経営、商学部の大学院進学率ランキングを見てみましょう。

◆大学院進学率ランキング（経済、経営、商学部）

順位		大学名	学部	%
1	国	京都大学	経済学部	11.6
2	私	岡山商科大学	経済学部	11.4
3	国	東北大学	経済学部	11.3
4	国	九州大学	経済学部	11.0
5	国	一橋大学	経済学部	10.7
6	国	東京大学	経済学部	10.0
7	国	北海道大学	経済学部	9.9
8	国	信州大学	経法学部	8.3
9	私	立命館アジア太平洋大学	国際経営学部	8.1
10	国	一橋大学	商学部	8.0

経済、経営、商学部の場合は学部卒での就職がしやすいこともあり、哲学・法学・政治学・史学・教育学などに比べると大学院への進学率は全体的にあまり高くありません。その中でも 1 位の京都大経済学部、3 位の東北大経済学部、4 位の九州大経済学部、5 位の一橋大経済学部と旧帝大や難関国立大が上位に並んだのは、学ぶ意欲の高い学生が集まっているからでしょう。一方、地方の私立大ながら 2 位につけたのは岡山商科大経済学部で、大学院進学をめざす学生をサポートする経済学科アドヴァンスト・クラスでは、有名大の大学院への進学者が数多く輩出されています。6 位は東京大経済学部、7 位は北海道大経済学部です。8 位に入った信州大経法学部は応用経済学科と総合法律学科の 2 学科制となっています。特に総合法律学科では法曹を目指して法科大学院へ進学するケースがあるためか、大学院進学率が高くなっています。9 位は立命館アジア太平洋大国際経営学部でした。10 位は一橋大商学部で、5 位の経済学部と並び一橋大から 2 学部がトップ 10 入りしています。

【産経新聞　受験ＡＢＣより引用・抜粋】

大学院進学率は、一般的に大学卒業者のうち大学院へ進学した人の割合として見ます。文部科学省の学校基本調査で確認することができます。自分が気になる大学の進学率は、ホームページや大学案内の「進路実績」で調べることができます。興味・関心のある人は、各大学の学生がどのような進路を歩んでいるのかを調べて、志望校選びの参考にしてみてはいかがでしょうか。